主要記事
フォローアップ研修、婚活パーティなど開催　（2～3面）
シリーズ・中小の進路を開く　（4面）
＝特別インタビュー＝
佐々木振興基金理事長に聞く

都中建

一般社団法人 東京都中小建設業協会
発行人 山口　巖　編集人 渡邊 裕之
〒160-0022　東京都新宿区新宿2-10-7
TOMビル5階
電話 03(3356)7711㈹　FAX 03(3354)7271
http://www.tochuken.or.jp/

ご挨拶

働き方改革と生産性向上

よりよき入札契約制度に

一般社団法人　東京都中小建設業協会
会長　山口　巖

明けましておめでとうございます。

皆様も心新たに新年を迎えられたことと思います。今年は更に時代の変化が予定されています。それは、五月、平成から次の時代に移行する改元であります。

「平成の時代」を建設業の立場で振り返ってみますと、四年頃までは業績上昇の波に乗っておりましたが、その後は投資額、就業者数、業者数も減少の一途でありました。いわゆる「建設業冬の時代」が続きました。多くの仲間がこの業界から去って行きました。ここ数年はようやく回復のきざしがみえておりますが、産業別の就業者時間当たりの付加価値労働生産性でみますと、全産業では上昇傾向にありますが、建設産業は二十年前と比較し横ばいであります。何としても建設業の生産性向上を図らなくてはなりません。

今年の最大の目標は、中小建設業の働き方改革と生産性の向上を一歩でも二歩でも前進させることであります。国交省では既に平成二十八年から施策に取り組んでおり、更なる「深化」をめざしておりますが、中小建設業は大変苦労をしながら、ほとんど前進がみられません。

都中建としても特別委員会を発足させ議論を始めておりますが、困難な道であります。「地道に一つ一つ積み上げながら皆がついていける範囲からスタートしよう」と申し合わせ、これからが具体的な議論です。

暮れの臨時国会では、入管法改正案をめぐり議論が進められました。新しい制度だけでなく技能実習生制度や留学生制度に及ぶ様々な問題が浮き彫りになりました。法案は成立しましたが、内容はこれからです。これら議論を総合的に再検討し、よりよい新制度が作り上げられることがのぞまれます。

東京都の入札契約制度も各方面からの議論を交え、昨年五月本格的実施となりましたが、その後半年の経過を見ますと、いろいろな反省点もあろうかと思います。本年二月、財務局との意見交換会ではこのことが取り上げられることになっております。更に議論を重ね、よりよき制度をめざして前進をしなければなりません。

その他、平準化問題や作成書類の削減等々の問題が残されております。

今年は、これらの諸問題が一歩でも前進する年にしようではありませんか。改めて、会員各位の覚悟とご協力を切望いたします。

本年が皆様にとって幸多き一年になりますことを祈念いたします。

持続的な成長とさらなる成熟

東京都知事　小池百合子

明けましておめでとうございます。

今年は、5月の改元を控え、我が国にとって新たな時代が幕を開ける節目の年となります。名称が「江戸」から改められて以来、明治・大正・昭和・平成の各時代を歩んできた「東京」。その150年の歴史に思いを馳せながら、都民の皆様の輝ける未来のため、さらには、全国各地との共存共栄や日本全体の発展のため、引き続き全力を尽くす決意でございます。

昨年は、新たな時代に向けて、東京をさらに進化させていく条例が数多く成立いたしました。都民の皆様の健康を第一に考えた「受動喫煙防止条例」をはじめ、共生社会の実現に寄与する「障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」、人権尊重の理念を広める「オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」、そして、中小企業振興の基本理念を定める「中小企業・小規模企業振興条例」などです。今後とも、東京で暮らし、働く「人」がいきいきと輝くための施策を幅広く展開することで、都民の皆様と共に、東京の明るい未来を切り拓いてまいります。

さて、9月にはいよいよ、ラグビーワールドカップ2019TMの開催を迎えます。東京スタジアムで行われる日本対ロシアの開幕戦から、約1か月半にわたり、全国12の都市で世界トップレベルの熱戦が繰り広げられます。前回のイングランド大会における、日本代表の活躍は記憶に新しいところですが、それを超える躍進を期待して、東京の「ラグビー熱」を大いに高めてまいりたいと思います。

そして、東京2020オリンピック・パラリンピックも、来年と迫ってまいりました。競技会場の整備や大会気運の醸成など、準備は着実に進んでおります。アスリートと並ぶ大会の主役であり、開催都市・東京の顔であるボランティアにも、多数のご応募をいただきました。大会の成功はもとより、大会準備を通じたバリアフリー化の進展や、働き方改革の推進など、東京を、持続的な成長とさらなる成熟へと導くレガシーの構築に向け、一日一日を大切に積み重ねてまいります。

新しい年が、皆様にとって幸多き輝かしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

働き方改革前進目標に

19年賀詞交歓会を開催

東京都中小建設業協会は1月9日、新宿ワシントンホテルで19年賀詞交歓会を開催した。

山口巖会長は「今年の最大の目標は、中小建設業の働き方改革と生産性向上を一歩でも前進させることにある。都中建でも特別委員会を発足させた。これからがが具体的な議論となる」とした。

さらに「東京都の入札契約制度は、昨年5月に本格的実施になったその後半年の経過を見ると、いろいろな反省点もあろうかと思う。さらに議論を重ね、より良い制度を目指して前進させていかなければならない。このほかにも平準化問題や作成書類の削減などの課題が残されている。今年は諸問題が一歩でも前進する年にしたい。会員各位の覚悟とご協力を切望する」と寄せた。

「実習生」事業を強化

また、新年会の席上、都中建協同組合の佐久間一三理事長が4月からスタートする「外国人労働者」制度の仕組みを報告し、建設業においてその受入れ体制等が整うには半年程度はかかるとの見通しを示したうえで、「まずは従来からの外国人技能実習生受入れの監理団体として、実習生事業の強化と利便性の向上、周知に努める」考えを示した。

全中建若手部会長に河津理事

昨年11月16日に中央区のホテルモントレ銀座で開かれた全国中小建設業協会の若手経営者部会（大野正勝部会長）の部会長・副部会長会議で19～20年度の次期部会長として都中建の河津修平理事（東京都若手経営者の会相談役）＝写真㊨＝が選出され、6月に予定される19年度の全中建総会を経て正式に就任する運び。

都中建の新年会で同新部会長内定が紹介された河津理事は「東京は日本のエンジン。皆様方と一緒に先頭に立って、働き方改革などに頑張っていきたい」と抱負を述べた。

（写真㊧は岩浪岳史若手経営者の会会長）

七海公治氏に都知事感謝状

東京都中小建設業協会など東京都建設業者届出25団体の主催で昨年10月18日に新宿区のハイアットリージェンシー東京で開かれた第68回東京都建設業者大会において、七海建設の七海公治社長＝写真㊨＝が優良建設業者表彰を受け、都知事感謝状が授与された。

授賞式のあと開かれた祝賀会では、山口巖都中建会長＝写真㊧＝も駆け付ける中、中川雅治参院議員、高島直樹自民党東京都支部連合会幹事長、増子博樹都議会都民ファーストの会幹事長、東村邦浩同公明党幹事長、吉原修同自民党幹事長らの祝辞が寄せられ、受賞の栄誉を祝った。

建設マスターに児玉孝氏

昨年10月5日に東京メルパルクホールで開かれた平成30年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典において、東京都中小建設業協会からは北辰建設の児玉孝氏が建設現場で工事施工に直接従事し、優秀な技能・技術を有する建設技能者として顕彰する「建設マスター」を受賞した。